

優秀賞
ゆうしゅうしょう

高校生区分
こうこうせいくぶん

一緒に歩く
いっしょ ある

沖縄県立小禄高等学校
おきなわけんりつおろくこうとうがっこう

三年
さんねん

池間 絢音
いけま あやね

私がアルバイトをしているお店に、あるお客さんが来ました。そのお客さんは二人組の女性で一人は髪の毛を結んでいて、ギフトを選んでいました。そしてお会計の時、髪を結んでいる女性が品物を購入してくれたのでその方に私は、

「一五〇〇円になります。ポイントカードはお持ちですか。」

と聞きました。髪を結んでいる女性は財布をカバンから出しはじめました。すると、隣にいたもう一人の女性が髪を結んでい

る女性に、

「それは違う店のカードで、その隣です。」

と言ったのです。私は一瞬間に思いましたが、そのままお釣りを髪を結んでいる女性の方にトレーに乗せ、返しました。すると髪を結んでいる女性はお釣りを落としてしまいました。その時に右手を見て、一瞬の疑問が解決しました。右手には白い杖を持っていて、目が見えない視覚障がい者でした。その方々が帰られた後、お客さんの行動を思い返してみると、隣にいた女性は購入した品物の色や形、大きさなどを髪を結んだ女性に伝えていたのを思い出しました。まるで二人で一つのように、素敵な関係だなど思ったと同時に、「自分は会計の時何も出来なかった」と思いました。お釣りやカードを返す時や品物を渡す際など、隣にいた女性のように一声かけてあげられれば、お釣り

を落としたりしなかったのにと、後悔が出てきました。

もしまた、目の不自由な人に出会ったら自分は何が手伝える

のだろうか。目の見えない相手にどう声をかけ、何をしてあげ

ればいいのかと私は考え、調べてみることにしました。まず、

声のかけ方です。目の不自由な人は手助けしてくれる人が周り

にいるのか気づきません。なのでこちらから「どうしましたか。」

「お手伝いしましょうか。」と声をかけてあげましょう。次に誘

導の仕方です。「手引きますのでひじを持ってください。」と言

って、軽くひじの上を持ってもらいます。そして目の不自由な人

の半歩前を歩くようにします。悪い例としては、手や衣類を引つ

ぱったり、後ろから押したりすると、目の不自由な人はとても

不安になります。階段の手前では上りなのか下りなのかを一声

かけ、誘導する人が一段上を歩きます。一緒に歩いている時は、

周りの様子を説明したり、「二〇〇m先に公園があります。」や

「左はレストランです。」など、方角や距離を説明してあげま

しょう。

目の不自由な人は世界に二億五千万人います。周りがぼやけ

て見えたり、部分的に見えなかったり、全く見えなかったり、

人それぞれではありますが、私が見えている世界とは違う世界

を見ています。あるテレビ番組で視覚障がい者の方のインタビ

ューを見た時に、凄く考え方だと感動した言葉があります。「見

えない分、想像して色や形など自分なりに生み出せる。」私た

ちは、トマトといえば赤くて丸いなどと、そのモノの色や形な

どを「これだ」と先入観によって決めつけてしまっています。

目の不自由な人は、少なくとも見えている世界を生きている私

たちより、想像力はとても豊かだと思えます。

明日急に目が見えなくなったら、私はきつと生きていけないと思います。大好きな家族や友人の顔も見れず、今まで普通に出来ていたことが目が見えなくなるだけで、何も出来なくなってしまう。目の前が真っ暗で何も見えない。ただただ恐怖だと思っています。ですが私は今、何不自由なく生活しています。そんな私たちにできることは何だろう。目の不自由な人だけでなく、耳の不自由な人、手足が動きにくい人、脳の発達が遅い人、障がいを抱えた方はたくさんいます。その方たちの目となり、耳となり、足となり一緒に歩んでいくことが私たちにできる唯一のことだと思っています。障がい者だからとか関係なく、困っている人に手を差し伸べられる、そんな世の中になることを私は願っています。